



川崎市立川崎病院
シンボルツリー

くすの木

川崎市立川崎病院の基本理念

私たちは、地域の基幹病院として、他の医療機関と連携し、「病氣」でなく「病人」を診る心を大切に、安全安心で質の高い医療を、患者の皆さまとともに考え、実践し、健康と福祉の向上を通じて地域社会の発展に貢献することを目指します。



感染が

再 拡 大

しています！

感染症に
要注意！

■ ウイルスが好む条件

低温

低湿度

乾燥により咳やくしゃみの飛沫が小さくなり、ウイルスがより遠くへ飛散するようになります！
さらに、ヒトの咽頭や気道粘膜も乾燥し、気道粘膜の繊毛運動も弱くなるため、よりウイルスが侵入しやすくなります。

■ 感染経路

コロナウイルス・インフルエンザ

✓ 咳やくしゃみなどの飛沫を浴びる

消化器系ウイルス（ノロウイルス等）

- ✓ 飲食物を介する感染
- ✓ ウイルスを含んだ塵埃を吸い込むことによる感染

■ 予防

人込みを避ける



咳エチケット



手指衛生



ワクチン接種



■ 特徴

インフルエンザ・ノロウイルス

感染するとほとんどの人が発症！
安静や薬の内服などで数日以内に改善します。

コロナウイルス

無症状や軽症の人が多く含まれる
一部の人は肺炎を併発し、重症化し場合によっては致命的となります。

重症化しやすい人

**高齢者
基礎疾患のある方**



新型コロナウイルスによる肺炎にはまだ確立された治療法はありませんが、抗ウイルス薬であるレムデシビルとステロイド薬の併用が有効であるとの報告もあります。
いずれにしても、重症化してしまうと長期の入院を余儀なくされることとなりますので、まずは感染しないように、できる限りの予防策を講じることが重要です。

肺炎

肺炎とは、「肺」に何らかの「病原体」が入りこみ炎症を起こす病気のことです。
一般的な肺炎の死亡率は約6%とされていますが、介護を要するような高齢者が肺炎になると約16%に上がるとのデータがあります。「肺炎」は命に関わる病気として決してあなどることができません！

呼吸器症状	全身症状
せき・たん 息切れ	発熱・だるさ 食欲低下

どんな症状が出るの？

症状が重くなると、意識がぼんやりしたり
血圧が下がったり（いわゆるショック）します。



診察では何を見るの？



呼吸器内科 田中希宇人 医師

- 聴診（ポコポコ、ヒューヒューといった異常な呼吸音）
- 体温の上昇
- 呼吸回数の増加
- 心拍数の増加
- 酸素飽和度（SpO₂）の低下

どんな治療をするの？

病原体に対する「抗菌薬」や「抗ウイルス薬」がメインとなりますが、補助的にたんの切れをよくする「去痰剤」や気管・気管支を広げる「気管支拡張薬」を使用することもあります。
また、脱水の補正や栄養管理、嚥下訓練などの全身管理も大事になってきます。

病気に
気づく
身体を
気にかける

様々な肺炎

肺炎には、病原体による「肺炎球菌性肺炎」「ウイルス性肺炎」「マイコプラズマ肺炎」などがあります。さらに、食べ物などが肺に入り込むことで起こる「誤嚥性肺炎」があります。
肺炎患者の約7割が75歳以上の高齢者とされています。さらに、そのうちの7割以上が「誤嚥性肺炎」と報告されています。

高齢者が罹りやすい！ 誤嚥性肺炎

Pick Up!



「誤嚥」とは、唾液や食べ物、胃液などが気管に入ってしまうことを言います。その食べ物や唾液に含まれた細菌が肺に入りこむことで起こるのが誤嚥性肺炎です。

誤嚥性肺炎は、加齢、脳血管などの病気、神経の病気、がん（食道・喉頭等）等が原因で起こります。また、口腔内が不衛生な場合にも起こります。

誤嚥性肺炎に気づく

高齢になるとこのような症状が目立たなくなり、なんとなく元気が無い、食事をすると疲れる、口に中の食べ物をいつまでも飲み込まない、体重が落ちる等、まさか誤嚥性肺炎とは思わないような症状が現れることがあります。

よくある症状

食事中や食後のむせ込み
黄色や緑色の痰が出る
呼吸が苦しくなる
38度以上の発熱

自宅でもできる！
肺炎予防

誤嚥性肺炎の予防

肺炎を予防する

《肺炎にならないために》

- 肺炎球菌ワクチンやインフルエンザワクチンの接種を適切に行う
- 糖尿病など、身体の抵抗力が下がるような病気を管理する（高齢者では誤嚥性肺炎も増えてきます）
- 口の中を清潔に保つこと、食事の形態に注意を払う

今年の冬は、例年のインフルエンザウイルス感染症に加え、新型コロナウイルス感染症の流行拡大も不安視されていました。しかし、皆さんの感染対策が功を奏し、インフルエンザの感染拡大は抑えられています。
今後も、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、屋内でお喋りする時にはマスクを着用する、3密を避ける行動をとる、こまめに手洗いをするなどの一般的な感染対策をぜひ続けるようにしましょう。

① 口腔内を清潔に保つ

口は肺や胃腸の入口です。口腔内の細菌を繁殖させないこと、肺に運び入れないことが重要です。
食後には、歯磨きやうがいを心がけましょう。

② 食事の工夫をする

調理の工夫のポイント

- やわらかく調理する
- 適した硬さ、大きさにする（ペースト、米粒・豆粒大等）
- 液体にはとろみをつける

注意が必要な食品

- 繊維が多い野菜（筍、ごぼう等）
- 喉につまりやすいもの（餅、団子等）
- パサパサしたもの（パン、カステラ等）
- ポロポロしたもの（炒り卵、焼き魚等）
- ペラペラしたもの（海藻類、トマトの皮等）

③ お口の体操をする

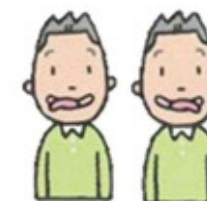
簡単なお口の体操を行う事で、食事に必要な口・舌・頬等の筋肉が刺激され、唾液分泌を促し、飲み込みにくさや、むせが軽くなります。

STEP 1



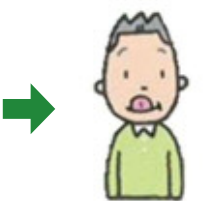
舌を出す
舌を喉の奥へ引く

STEP 2



口の両端をなめる

STEP 3



鼻の下、顎の先を
触るように舌を動かす



川崎病院が取り組む！

肺炎を予防するためのポイント

① 嚥下検査 「飲み込みづらい原因」を究明！

嚥下造影検査や内視鏡検査を行い、飲み込みづらくなっている原因を確認し、適切な食形態や食事姿勢を提案しています。



飲み込みの確認



② 嚥下回診 「食べ方」を改善！

医師・看護師・言語聴覚士等が、実際に患者さんがお食事しているところへお邪魔し、ご飯を食べている様子を確認します。

内視鏡等も用いて、実際に喉の奥を観察することで、一口分の適量や、飲み込みのスムーズさを確認し、適切な食事方法を提案します。

③ 看護師による指導 退院に向けて、認定看護師がサポートします！

当院では、知識・経験が豊富な専門の看護師が、病棟の看護師たちと、誤嚥の心配がある患者さんに適した食事方法を考え、提案しています。

また、退院後も安心して食事ができるよう、患者さんやご家族に食事の作り方を指導したり、誤嚥を起こしにくい食品等をご案内したりすることで、不安解消に努めています。

食事への不安や心配がある方は、いつでもご相談ください！



摂食・嚥下障害認定看護師

CHECK！

命に関わる危険な病気 肺がん

肺がんは、がんの中でも罹患数が第2位、死亡数が第1位と、命にかかわる病気です。自分の身体・命を守るため、病気を早期に発見するために、健康診断の受診や、症状がある場合には早めに医療機関を受診しましょう！

肺がん気づく

肺がんでも早期（小さい・転移がない）であれば完治することが期待できます。しかし、そのような肺がんは、自覚症状がないことも珍しくありません。40歳以上の方は、川崎市肺がん検診（胸部X線写真など）が受けられます。気になる症状がなくても、年1回の肺がん検診を受けることが望まれます。

いくつかの症状があったり、長引いたりした場合には、早めに医療機関を受診し検査を受けることも大切です！

肺の病気でよくみられる症状

咳・痰の増加
血痰
息切れ
胸痛

症状が続く場合

検査

胸部レントゲン
胸部CT

肺がんの疑い

精密検査

内視鏡（気管支鏡）
CTガイド肺針生検

当院では、大変多くの精密検査の実績を積み上げてきています。健康診断や、かかりつけ医のご受診時に肺がんが疑われた場合には、当院へご相談ください。

〔発行元〕 令和3年1月26日発行（第42号）

発行責任者：林 徳厚／編集：広報部会

事務局：川崎市立川崎病院庶務課 川崎市川崎区新川通12-1 電話：044-233-5521

<http://www.city.kawasaki.jp/32/cmsfiles/contents/0000037/37856/kawasaki/>